

《I 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標》の記述及び資料等について

【建学の精神、教育理念について】

(1) 建学の精神・教育理念を記述し、その意味するところ及び建学の精神・教育理念が生まれた事情や背景をできるだけ簡潔に記述して下さい。

建学の精神は、「PAX MUNDI PER LINGUAS—言語を通して世界の平和を—」である。

これは、言語を通じて世界平和に貢献することを目的として、外国語及び国際社会と地域文化に関する教育研究を行っていかうというものである。そして外国語を修得するためには困難にくじけない強固な意思と不断の努力が何より肝要であることから、「不撓不屈」をその教育研究の基本精神としている。

この建学の精神は、創立者が、戦後の昭和22年5月、平和な世界の実現を目指すことが何にもまして大切であるとの考えから、「日本の再建には教育の再建、特に外国語教育の復活が緊急かつ重要な問題である」との強い信念と志をもって、前身となる京都外国語学校を創設したことに由来する。

教育理念は、「国際社会の平和に貢献し、次世代を担うことのできる『人間力』豊かなリーダーの養成」ということである。この『人間力』とは、「国際社会の一員としての責任を自覚し、教養豊かな魅力ある人間として力強く生きていくための総合的な力のことをいうものである。そして、この教育理念を達成するための具体的な教育目標は、①確かな日本語力と実践的な外国語運用力、②社会性、対人関係性の向上に資するコミュニケーション力、③日本及び外国の文化の理解に基づく多文化共生実現力、の3つの力を備えた人材を育成することである。

添付資料1「Light」P. 1～13、添付資料2「CAMPUS LIFE」P. 7、添付資料3「学生手帳」表紙 P. 3、添付資料4「建学の精神・本学のミッション」ホームページより

(2) 現在は建学の精神・教育理念をどのような形や方法で学生や教職員に知らせているかを記述して下さい。

先述の建学の精神の下、キャリア英語科は国際社会の中で真に役立つ、実践的な英語力と国際活動に必要な教養を身につけ、世界の平和に貢献する人材を育成することを目的としている。建学の精神については、学校案内「Light」に記載して受験生に広報するとともに、新入生には授業開始までの1泊2日の学外オリエンテーションにおいて説明をして周知徹底を図っている。また、第1・第2 Semesterで総合科目として「言語と平和 I・II」を必修科目として学修させて、本学の建学の精神が現代世界の重要課題であることを理解させ、本学で学ぶ基本的な姿勢を身に付けさせている。2年次生に対しても学年始めに毎年発行している学生手帳や学生生活の手引きである「CAMPUS LIFE」に建学の精神が記載されており、オリエンテーション時に全学生に配布して徹底を図っている。教職員に対しては、年頭の挨拶や各種行事、研修の際に、理事長や学長から引用解説されているほか、ホームページ上で常時知らしており、十分周知徹底が図られるように取り組んでいる。

なお、今後としては今までの周知の方法を継続しながらきめ細かく実施していく。

参考資料1「学外オリエンテーション実施要綱」、他上記(1)の資料

【教育目的、教育目標について】

(1)多くの短期大学が複数の学科等を設置しています。その場合、それぞれの学科等では建学の精神や教育理念から導き出された、より具体的な教育目的や教育目標を掲げているものと思います（例えば、設置認可の際に「設置の趣旨」等で示されたもの等）。ここでは全学的に示された教育目的や教育目標ならびにそれぞれの学科等が設定している具体的な教育目的や教育目標を記述して下さい。

〔京都外国語短期大学のミッション〕

建学の精神に基づき、世界平和に貢献することを目的として、外国語及び国際社会と地域文化に関する教育研究を行っている。

教育の理念は「国際社会の平和に貢献し、次世代を担うことのできる『人間力』豊かなリーダーの養成」です。本学が求める「人間力」とは、「国際社会の一員としての責任を自覚し、教養豊かな魅力ある人間として力強く生きていくための総合的な力」のことである。

キャリア英語科に設けられた2つのコースのうち英語コミュニケーションコースでは、グローバル化時代の担い手として通用する発信型国際人に求められる能力を、観光文化コースでは、観光文化・観光ビジネスの分野において必要なコミュニケーション力、企画創造力、実践力を修得することを目的としている。

これらの教育目的や教育目標を含む次の3つのポリシーを策定している。

(1) ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）

キャリア英語科は英語コミュニケーションと観光文化の2つのコースを有することを活かし、実践的な英語力と国際活動に必要な教養を身につけ、世界の平和に貢献する人材を育成することを目的としている。

各コースの目標を以下のとおりとし、2年の修業年限の中で、英語コミュニケーションまたは観光文化のいずれかのコースを履修し、卒業に必要な単位を修得した場合に短期大学士（英語）の学位を与える。

英語コミュニケーションコース	グローバル化時代の担い手として通用する発信型国際人に求められる能力の修得
観光文化コース	観光文化・観光ビジネスの分野において必要なコミュニケーション力、企画創造力、実践力の修得

(2) カリキュラム・ポリシー（教育課程に関する方針）

キャリア英語科は、英語コミュニケーションと観光文化の2コース制の特性を活かして、キャリアを形成するための実践的な英語力とコミュニケーション力、及び観光文化・観光ビジネスの分野に必要な知識と技能を身につけた人材を育成することを目的としている。また、夜間の短期大学の特性を活かした多様な学び方の機会を提供することによって人間力を高め、社会に役立つ人材を育成することをカリキュラム・ポリシーとして、教育研究活動を推進する。

キャリア英語科の教育の特色及び科目区分ごとの目標は、次のとおりである。

[キャリア英語科の教育の特色]

- ①働きながら学ぶことができる、社会人にも開かれた夜間の2年制課程である。
- ②短期間で集中的に英語を学び、目的に合わせたコース制により実践力を身につける教育を行う。
- ③言語の背景となっている豊かな教養と幅広い知識を身につける教育を行う。

[科目区分ごとの目標]

専門基礎科目	実践的英語運用力の基礎及び英語コミュニケーションと観光文化に関する基礎知識を身につけることを目標とする。
専門リメディアル科目	英語と日本語の基礎的表現力を身につけることを目標とする。
専門コア科目	進学・就職・留学等の各自の目標実現に向け、豊かなキャリアづくりに役立つように、実践的英語運用力や観光文化に関連する実務能力を身につけることを目標とする。
専門展開科目	国際社会で広く活躍するための素養となる、英語コミュニケーション・言語・文学・社会あるいは観光文化に関する知識や実践に即した実務能力を身につけることを目標とする。
教養科目 (選択A)	英語以外のもう一つの外国語の基礎的運用力、社会で役立つ情報技術、特にコンピュータに関する知識と活用の仕方、さらに、心身の健康保持・増進のための身体運動についての科学的知識とスポーツ実践能力等を身につけることを目標とする。
教養科目 (選択B)	自立した一人の人間としての自覚を持って国際社会で広く活躍するために必要な、現代社会のさまざまな分野における幅広い知識に裏付けられた的確な判断力を身につけることを目標とする。
総合科目	言語と平和についての総合的な理解を深め、本学で学ぶ上での基本的な姿勢を培うことを目標とする。

(3) アドミッション・ポリシー (入学者受け入れに関する方針)

本学の教育の目的・理念・目標を理解し、キャリアを形成する上で十分な英語コミュニケーション力と、観光文化・観光ビジネスの分野に必要な知識・技能を修得して、国際社会に貢献したいという意思のある次のような学生を広く国内外から求める。

[求める学生像]

- ①グローバル化する社会において、言語を通して世界の平和に貢献しようとする人
- ②英語の実践的な運用力の修得に意欲を持っている人
- ③幅広い知識とビジネススキルの修得に意欲を持っている人
- ④観光文化・観光ビジネスの分野に興味や関心を持っている人
- ⑤学力を活かして4年制大学に編入学を望む人
- ⑥英語を学ぶ上で必要な適性と基礎学力を有する人

添付資料1「Light」 全体、 添付資料4「建学の精神・本学のミッション」ホームページより

(2)それぞれの学科等の教育目的や教育目標を、現在はどのような方法で学生や教職員に周知し、またどのような方法で学外に公表しているかを記述して下さい。

アドミッション・ポリシーに基づき受入れた学生を、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーに則って、人材を育成する教育研究を行っている。教育目的や教育目標については、学則に記載されているほか、学生生活の手引きである「CAMPUS LIFE」に記載し、毎年、授業科目オリエンテーションで全学生に配布している。また、履修の手引きである「単位修得要領」にはディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーを記載し、全学生に配布している。

本学のミッションについては、学生向けの各種印刷物に掲載しているほか、学校案内「Light」やホームページに掲載して学生、教職員だけでなく広く社会に公開している。また、教職員に対してはミッション制定時に、会議においても説明して周知徹底を図っている。

添付資料2「CAMPUS LIFE」学則 P.185～P.191、添付資料5「単位修得要領」P.19、

【定期的な点検等について】

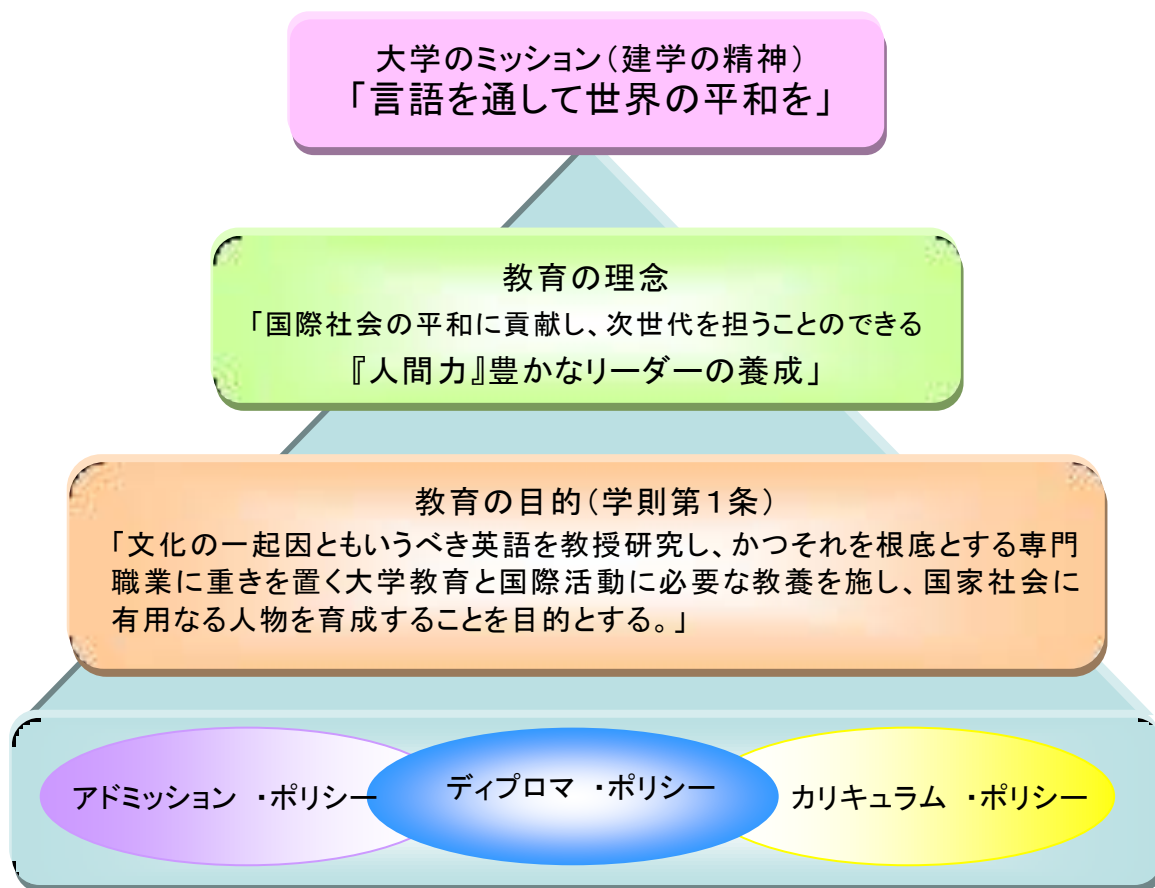
(1)建学の精神や教育理念の解釈の見直し、教育目的や教育目標の点検が、定期的に行われている場合はその概要を記述して下さい。また点検を行う組織、手続き等についても記述して下さい。

建学の精神の解釈の見直しは定期的には行っていないが、教育目的等については、それらに係る自己点検という形で、毎年度、「自己点検・評価運営委員会」、具体的にはその下部組織としての「自己点検・評価実施委員会」で、所要の検討を行っている。

特に、平成19年度に短期大学の中・短期の政策を検討するため、学長の私的政策検討委員会として「特別委員会」を設置し、平成20年度にはこれを発展的に再構成して「構想会議」としたが、この構想会議において、大学を取り巻く環境の変化・社会からのニーズの変化に対応した教育研究活動を行うために、「建学の精神」に基づく「教育の理念」「教育の目的」、そしてこれらに則った3つのポリシーを検討・制定し（次図参照）、前記実施委員会の審議に反映させている。また、教育の理念に基づく教育目標を達成するための具体的な施策については、課題ごとにプロジェクトを立ち上げて、関連する各種・諮問委員会や部署と連携しながら計画・実施・点検を行っている。

なお、それらを検証する組織上の仕組みとしては、教育全般について検討する「教授会」、経営面の責任機関としての「理事会」がある。

参考資料2 「京都外国語短期大学 自己点検・評価運営委員会規程」



京都外国語短期大学の教育

(2) 建学の精神や教育理念の解釈の見直し、教育目的や教育目標の点検及びそれらを学生や教職員に周知する施策等の実施について、理事会または短期大学教授会がどのように関与しているかを記述して下さい。

建学の精神や教育理念の解釈の見直し、教育目的や教育目標の点検については、構想会議が中心になって、関係各種諮問委員会と連携しながら行い、そこでまとめた事案を教授会で検討し、その後議題に応じ理事会に報告・審議を経て決定している。

こういった見直し、点検のプロセス自体が、建学の精神等を教職員に周知し、そして教職員が理解するための方策となっているといえ、また、学生への周知は、入学式や卒業式の式典等における理事長・学長の挨拶で当該事項を引用説明する形が1典型といえるが、基本的には教職員・学生への周知は、ホームページや各種印刷物に掲載することにより行っている。

なお、理事会の関与については、学園創立40周年、50周年、60周年等の節目節目に各記念事業を実施する場合の審議・決定のときに、建学の精神等が理念的バックボーンとして、なおふさわしいかどうかを点検・確認してきている。また、平成19年度に「言語を通して」の意を踏まえ、短期大学の学科を「キャリア英語科」に名称変更するに当たり、教授会からの報告を受け、特に建学の精神、教育目的等考慮しながら、当該案件が理事会で審議された。

添付資料4「建学の精神・本学のミッション」ホームページより、参考資料3「創業者小史」

【特記事項について】

(1)この《I 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標について努力していることがあれば記述して下さい。また短期大学で独自の使い方や別の語句を使っている場合はその旨記述して下さい。

特になし

(2)特別の事由や事情があり、評価項目や評価の観点が求めることが実現（達成）できないときはその事由や事情を記述して下さい。

該当事項なし

<添付・参考資料>

*建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標等についての印刷物

- 添付資料 1 「Light」
- 添付資料 2 「CAMPUS LIFE」
- 添付資料 3 「学生手帳」
- 添付資料 4 「建学の精神・本学のミッション」（ホームページ 当該部分）
- 添付資料 5 「単位修得要領」

- 参考資料 1 「学外オリエンテーション実施要綱」
- 参考資料 2 「京都外国語短期大学 自己点検・評価運営委員会規程」
- 参考資料 3 「創立者小史」